

平成22年度入省予定

環境省 I 種理工系

「内定者の声」



【はじめに】

本紙は平成 22 年度 環境省理工系内定者 7 名が自主的に製作したものです。

幅広い人材を求める環境省を皆様に知っていただくこと、環境省に興味を持っていただくことを目的に製作しました。

ここに示した内定者の経験が皆様の御参考になれば幸いです。

平成 21 年 10 月
環境省理工系内定者 一同

【目次】

*内定者データ

*内定者の声（各個人の経験談）

「内定者の声」を寄せたのは、内定者 7 名中 7 名です。

（付記）

- ・本紙の文章に関する責任は全て製作者である内定者 7 名にあります。また、各人の経験や考え方、勉強法などは個人的な見解です。御理解の上お読みください。
- ・「内定者の声」基本データの見方

基本データ

(1) 専攻、学年

(2) 年齢（入省時平成 22 年 4 月 1 日時点）、性別

(3) 国 I 試験区分

(4) 官庁訪問時に併願した省庁（第 1 クール訪問順）

環境省理工系の官庁訪問は春季と夏季の年 2 回行っており、その期間にいくつかの希望省庁を訪問することができます。内定者がほかにどのような省庁を訪問したのか、参考にしてみてください。

(5) 民間企業などの就活状況、その他の進路

(6) 官庁訪問で一番アピールしたポイント

【内定者データ】

男女比	男性 5名	女性 2名
春夏比	春季 3名	夏季 4名
試験区分	理工 I 5名	理工 IV 2名
学歴	修士新卒 7名	
説明会参加	3~4回 3名	5回以上 4名
OB訪問	あり 3名	なし 4名
初回訪問日	初日 6名	2日目 1名
その他の進路	民間/公務員併願 5名	研究員/進学/留年 2名

* 説明会 → 霞が関 OPEN ゼミ、人事院や大学主催の説明会、
環境省主催の政策シミュレーション など

* 初回訪問日 → 官庁訪問の際、環境省を何日目に訪問したかを表します。

* これは今年度の内定者に限った結果です。

基本データ

(1) 理工学系 機械工学 ディーゼルエンジンの排出微粒子 修士課程（修了見込）

(2) 24歳 男

(3) 理工 I

(4) 環境省→経産省

(5) 電力・ガス・石油などインフラ、生産技術など 1社内々定あり

(6) サークル（環境系）での活動や体験

志望動機 ～素直に問題を解決したいと思う、それだけで十分～

自分がいつ頃、どうして環境問題に関心をもったのか、正直に言うとはっきりとは覚えていません。しかしそんな人も多いのではないのでしょうか。私たちの時代は地球温暖化をはじめとした地球環境が社会問題としてはっきりと認識され、「環境を守ろう！」という声が年々強くなっていく状況だと思います。その中で素直に「環境問題を解決しなければならない」と思えること、それだけで十分環境省を志望する理由になると思います。

環境問題を解決する手段は、就職先を考えるだけでも数多くありますが、私が行政を選んだのは大きく3つあります。1つ目は性格。私の中で民間企業というどうしても利益追求というイメージが強くなり、極端な例かもしれませんが“この部品の生産コストを5銭下げる”ために仕事をする気にはなれませんでした。2つ目はこれまでの経験。高校では生徒会活動に打ち込んでいて、行事の企画などをずっとやっていました。そこで先生を説得するために筋道立てて考えたり、自分が考えた通りに全校が動いたりするのが面白くて、それに近いのが行政かなと思いました。3つ目が専門。私の専門は機械だったので、それを活かせる分野で環境問題の解決に貢献できる道も探しました。ですが、化学や土木ならまだしも機械はじっくりくるのがない、というのが私の結論でした。そこで、国家公務員の専門に関係なく仕事ができる点は、私にとっては魅力の1つでした。

学生時代 ～面接で話すことがない！ことはない～

私の学生生活は至ってスロースタートでした。

学部1～2年生の頃は、何もしていなくて悔やまれるばかりです。先ほどもふれましたが高校では生徒会活動に打ち込んで本当に毎日が楽しく、それに続いて受験勉強。そして大学入学から環境が変わり、かといって心機一転目標を立てるわけでもなく、一息ついたところでした。

学部3～4年生の頃は、サークル活動が中心だったかなと思います。1年生の頃から環境系のサークルに入っていましたが、人数は片手で数えられるほど、活動は週1回だけ、内容は地味に輪読という極小サークルでした。しかしそれではいけないと思い、自分が積極的に動いて他大学のサークルに話を聞きに行ったり、学内で環境啓蒙活動を始めたり、全国大会に出たり、学園祭での展示を変えたりと、極小は極小なりに色々工夫して活動するのは楽しい経験でした。

大学院生の頃は、研究は研究でしっかりやっただけです。これも学生時代にしかできないことだと思います。一方で研究室生活も楽しく、徹夜でTVゲームをしたり、先輩と車で鹿児島まで旅行したりと、ようやく学生らしい生活だったように思います。

学生時代は色々体験したほうが良いとは思いますが、「学生生活に面接で話すようなことをしていない」と嘆く人が私の周りにもいますが、そんな人でもなんとかなる、という例が私でしょうか。

公務員試験・官庁訪問対策 ～話し方や表情を見られている～

公務員試験は修士1年のときに受けました。修士2年で受験して夏に官庁訪問となると、民間との併願が難しいのではないかと考えていたので。試験勉強は主に卒論発表が終わってから行い、一般教養については市販の問題集と対策本、専門については学部のときの教科書を見直しました。あとは過去問を先輩からもらっていたのでそれを解きました。

官庁訪問対策としては、私は民間企業も併願していたこともあり、一般的な企業分析と自己分析などを行いました。しかし春の官庁訪問では、残念ながらいい結果は得られませんでした。そのとき言われたのが「能力は試験を合格している時点でみんな一緒。あとは話し方や表情を見られている。」ということでした。当たり前ですが、ハキハキと元気よく、明るい表情で話すことが重要だと思います。また環境省の官庁訪問は一般的な面接と違い、1対1で職場で話すという、私にとっては緊張感が出せない雰囲気だったので、まさに素の自分が見られても大丈夫といえるような心構えが必要かと思えます。あとは体力と英語。特に英語は今まで苦手のままにしていたので、一念発起してTOEICを受けて夏の官庁訪問に臨みました。

志望者へのメッセージ ～諦めたらそこで…～

最初の就職は人生にとって重要だと思いますので、就職活動は悔いのないようにしたほうが良いと思います。まずはできるだけたくさんの企業の話聞いてください。関心がなかった業種でも案外よいと感じられるかもしれませんし、工場見学などは他ではできないことで単純に面白いものです。それらを通じてこそ自分がわかると思います。また、機会がある限り諦めずにチャレンジすれば、熱意は伝わるかもしれません。私は春の官庁訪問が終わった時点で民間企業に就職するか随分と悩みました。けれども公務員として環境問題に取り組むことはもはや“将来の夢”となっていましたし、自分自身納得いかなかったため、再挑戦することを決めました。「諦めたらそこで…」です。

最後に宣伝になりますが、環境省の先輩方はいい人たちですよ。雰囲気が楽しそうですし、役職が上の人までみんな熱意をもっているんだなと感じます。これを書く時点で2、3回しか会ってないですが、会う度にモチベーションが上がります。かといって“公務員はこういう人間でないとダメだ”ということもなく、多様な方がいると聞いています。自分の欠点を見て諦めることなく、是非挑戦してみてください。

基本データ

- (1) 公共政策系 技術政策（修了見込）
- (2) 27歳 男
- (3) 理工 I
- (4) 環境省→厚生労働省→農林水産省
- (5) 商社・メーカー・シンクタンク。メーカー1社から内定をいただく。
- (6) 剣道部での経験。各種インターンシップ。

志望動機 ～信念を持って生きて行きたい～

私はこれからの社会のことを考え、これに取り組んできたと自信を持って言える生き方をしたいと考えています。そして、ここ 50 年で必ず取り組まなければならない課題は、資源の枯渇問題だ！！との思いから、学士課程では資源開発工学を学び、修士課程では社会システムを学びたいとの思いから公共政策を学びました。そこで、これからは持続可能性に着目した、循環型社会を作っていく必要がある、との考えにいたりしました。

就職先を決める決定的な要因となったのは、私の価値観と環境省で働いておられる方々との価値観が似ていると感じ、ここでなら私の信念に沿った仕事が出来ると感じたからです。

今の時代、環境に対する配慮がない企業、官庁等はありません。しかし、就職活動を通じて感じたことは、それぞれに社会に携わる立ち位置があり、企業・省庁によって日本の資源戦略に関しても、意見が微妙に異なってくるということです。そのような中、特定の産業を抱えていないからこそ、環境問題という幅広い問題に中・長期的な視点から携われる、環境省に魅力を感じました。

学生時代 ～その時その時に打ち込む～

私は、高校まで野球をしていましたが、大学では心身共に鍛えたいと思い剣道を始めました。何かに一心に打ち込むことが自分自身の成長につながると思い、週 6 日の稽古と学業、アルバイトを両立してきました。しかし、やはり遊びも必要です！！学生寮に住んでいたのも、夜遅くまで騒いだり、休日に旅行に行ったりと学生生活を楽しみました。面接でのちょっとした小話では、寮生活でのバカ騒ぎの体験をよく使いました。

また社会勉強だと思い、インターンシップでは民間・政治・行政との各分野に行き、計 3 回行いました。興味あることを様々な視点から見ることで、客観的な比較が出来るようになるので、とても有意義な体験でした。

学生時代に大切だと思うことは、その時その時に打ち込むことだと思います。就職活動で改めて学生生活を振り返ると、盛りだくさんな経験談があり、自分でも驚きました。しかし、最初から全てを思い描いていたわけではなく、こつこつとその時その時を積み重ねた結果です。今まで…、こんなこと…と思わず、目の前のことからひとつずつ取り組む、が自分のモットーです。おかげで悔いのない学生生活を送ることが出来ました。

公務員試験・官庁訪問対策 ～粘り強さが大切～

私は学部4年次に試験を合格し、学部4年、修士1年、修士2年の各春・夏と計5回の官庁訪問を行い、最後の最後に内定を頂くことが出来ました。

試験勉強は学部3年次の10月から始め、部活を休部してひたすら研究室で行いました。一次試験対策では浅く広く勉強し、選択問題で簡単な問題のみ選択出来るようにしました。特に政治、経済等は問題数も多く、基礎的な知識で解けるものも出ますし、今後必要になる知識だと思い、文系科目も入門書レベルの教材で勉強しました。

二次試験対策では、特に教養論文に力を入れました。長いパソコン生活で、手書きの文章を書くことから離れており、とても酷い状態でした。そこで、過去問を解き、教授又は進路担当の方に見てもらい、自分で直す、との作業を繰り返し行いました。専門科目はひたすら授業の教材を復習しました。

官庁訪問対策は、指導教官の方に模擬面接をお願いしたり、学生同士で政策ディスカッションを行ったりしました。全く知らない人に対し、自分の意思を伝える訓練はとても為になりました。

公務員試験の勉強は、時間も労力も必要となります。しかし、飛び越えることが出来るハードルです。あきらめずに粘り強く頑張ってください。

志望者へのメッセージ ～社会ビジョンを持とう！！～

私が就職活動を、自信を持って行えるようになった瞬間は、私はこのような社会を築いて行きたい、との“社会ビジョン”を、はっきりと伝えられるようになったときでした。官庁、民間企業へ入ることは、その理想的な社会を実現するための手段である、とすることで、志望動機、キャリア形成をより具体的に体系的に語れるようになったと思います。

これから就職活動を向かえる皆さんも、①自分自身の価値観から来る理想の社会像②理想実現に向けての自分の立ち位置、の二点について思いを巡らせていただければ、どこを受けたとしても、芯のぶれない就職活動が出来るのではないかと思います。

私の経験が、皆さんの就職活動の一助となれば幸いです。ぜひ周りの人と協力し合いながら、乗り越えて行って下さい。皆さんの御健闘を祈念しております。

基本データ

(1) 工学系 システム創成 古気候モデリング 修士課程2年 (修了見込)

(2) 24歳 男

(3) 理工I

(4) 環境省→経産省

(5) エネルギー (電力, ガス), シンクタンク 内定1社

(6) 自分の長所 (粘り強さ)

志望動機 ～サイエンティフィックな興味から～

昔から私は就職に関して、「どうせ働くなら出来る限り多くの人々の幸せにつながる仕事がしたい」と考えていました。しかし一方で、その思いは漠然としたものに過ぎず、具体的にどういった道を選ぶのか決めかねていました。そんな大学1年目の秋、なんとなく受講した大学の講義をきっかけに、地球環境問題に興味を持ちました。幼少の頃から自然科学が好きだったため、温暖化や酸性雨、オゾンホールなどが生じるメカニズムを聞いて純粋に「面白い!」と感じ、この分野を専攻することに決めました。

やがて進路を考えるにあたり、「今ある豊かな地球環境を後世に遺していく手伝いがしたい」と思うようになりました。そして、そのためには社会に対して直接的で大きな影響力を持つ行政の立場からのアプローチが効果的ではないかと考え、環境行政の道を志しました。環境省を選んだのは、日本の環境行政の根幹にあたる存在であり、社会の中で最も公益的かつ長期的な視点から、環境問題を第一に考えることができる場であると単純に考えたからです。

学生時代 ～二本柱: フットサルと研究～

学部時代はサークルでフットサルに打ち込み、練習にはほぼ毎回参加していました。今にして思えば、フットサルに、そしてサークルの仲間と過ごすのに費やした時間は4年間のうち圧倒的なウェイトを占めていました。

現在の所属は工学系研究科ですが、研究テーマは理学 (地質学) に近いものです。大昔の気候変動を数値計算で再現し、その原因を探ろうとしています。研究を通して地球規模の環境変動を長期的視点から見る感覚が培われました。また、研究室のゼミや学会発表、論文執筆を通して、日本語の文章やプレゼンテーションによるアウトプットの質を向上させて頂けたと感じています。

公務員試験・官庁訪問対策 ～とりあえず基本を押さえる～

公務員試験の勉強を本格的に始めたのは大学3年の冬学期が終わってからです。教養と専門の択一には市販の問題集を使用しました。専門記述試験は先輩から過去問を譲って頂き、選択する科目に目星をつけました。私の所属学科に近い内容のものは「資源エネルギー事情」など数式の少ない分野だったので、大学の講義資料などを参考に期末試験を受ける感覚で知識を整理しました。

私は学部4年の時に試験に合格し、修士2年の春に官庁訪問を行いました。民間企業への就職活動も並行して行っていたので、聞く時・話す時の態度や言葉遣い、場の雰囲気になれるなどの点で企業での面接の経験が役に立ちました。環境省では1対1の面接を1日に4人くらいの職員の方と行いましたが、志望動機と研究テーマは特に訊かれることが多かったので、事前にしっかり準備しておくの良いと思います。また、申し込みの際に提出する「官庁訪問申込票」の内容を基に面接が進むため、各項目への自分の回答について明快に説明できるようにしておく必要があります。ある職員の方は、「部下として一緒に仕事をする場面が想像できるか」という観点で学生を見ているとおっしゃっていました。知識があるに越したことはありませんがそれ以上に、相手の目を見ながら自分の言葉ではきはき答えられるか、といった単純なことが案外大事なのかもしれません。

志望者へのメッセージ ～自分の中に一本の「軸」を～

環境省を志望される方に限ったことではありませんが... 大切なのは、自分にとっての「軸」となる考え・価値観を持つことだと思っています。最初はぼんやりとしていて、捉えどころのないものかもしれません。でも、それを言葉にできれば自ずと、志望動機やものの見方・考え方に一本筋が通ってきます。ちなみに私にとっての「軸」は、「地球環境問題の解決に携わることで将来の世代の幸せにつながる仕事がしたい」というものです。

以上の内容は私個人の主観的な意見でしかありませんが、皆さんが進路の選択肢の一つとして環境省を考える際に、何らかの参考になれば幸いです。

未筆ながら、皆さんが満足して就職活動を終わられることを願っています。

基本データ

(1) 工学系 都市・建築学 建築材料 修士課程 (修了見込)

(2) 24歳 女

(3) 理工 I

(4) 環境省→国交省

(5) 地方公務員

(6) 物事への取り組み方

志望動機 ～なぜ環境省なのか？～

自分は選ばれる立場にあると同時に、選ぶ権利も持っています。仕事に対するやりがい、勤務条件、お給料等選ぶ際の評価基準は人それぞれだと思いますが、私はやはり仕事のやりがいを一番に考えました。環境省でならいろんなことに挑戦でき、大きな責任の元に大きなやりがいを感じることができると感じています。

・なぜ環境なのか？

環境問題は、未来にとってとても重要な課題であるが、まだまだ発展途上であり興味深い。

・なぜ環境省なのか？

環境問題への取り組みかたはたくさんあると思います。その中で私は、環境負荷低減のための世の中のシステムを作ることで環境対策に取り組みたいと考えました。このように考えるようになったきっかけは、砂漠での植林ボランティアを経験したことです。広大な砂漠に一本ずつ木を植えてみて、この取り組みが環境対策としてどれほどの効果があるのだろうと考えさせられました。確かにこのような取り組みは無駄ではありませんが、このような人の善意にのみ頼るのではなく、社会のシステムとして(つまり制度などを整えることで)環境負荷低減への誘導が必要であると考えます。このようなアプローチの仕方が可能なのは環境省だけであり、そのスケールの大きな仕事に対してとても魅力を感じています。

学生時代 ～遊ぶ暇はあっても休む暇はない～

スポーツや旅行、アルバイト、サークル活動や研究。本当にいろんなことに挑戦しました。経験やそこでであった人たちは私自身の財産だと思います。例えばある選択を行う際、結果的には同じ選択をすることも、その選択に対して様々な根拠や、裏付けを持って行うことは、とても重要なことだと思います。そうすることによって自信を持ってその選択が行えます。いろんなことを経験し、いろんな人と出会い、いろんなことを学び、人としての経験値を上げる事はその裏付けや根拠の元となるのではないのでしょうか。そういった意味では、学生時代は、フットワークを軽くし、何事にも臆せず積極的に挑戦することで、貴重な経験値をたくさん得ることができたと思っています。

公務員試験・官庁訪問対策 ～逆算～

・公務員試験

私が試験へ取り組むにあたりやったことは、“逆算”です。筆記試験は、求められる点数が比較的是っきりしています。その点数を取るには、何がどのくらいでできるようにならなければいけないのか、それを習得するためには何が必要なのか、それに必要な時間は…。という具合に、目標に対する必要条件を明確にし、逆算することで、今やるべきことを決めていました。（←この考え方をバックキャストというらしいです。）とはいってももちろん計画どおりにいかないことのほうが多かったのですが、そのたびに修正していましたが。具体的には、教養では理系分野と英語、判断推理のみに力を入れ、その他はまったく手をつけませんでした。その代わりそれらの分野は取り残しのないようにしました。そして最も力を入れたのが一次の専門です。同じ問題集をくり返し解きました。専門はやれば点数が比較的伸びやすいと思います。専門分野では院試のときに使っていたものを使用しました。二次は製図だったので、これだけは別に、とにかくいっぱい図面を書きました。全ての試験において、時間配分はとても大切だと思ったので、過去問を使って、リハーサルを行いました。限られた時間の中における最高のものを出す事は、仕事をしていく上でも必要なことかもしれません。

・官庁訪問対策

私は自分の考えを図式化し、整理をしました。自分の考えに対し、自分でつっこみどころを探します。例えば、その根拠は？具体例は？…などです。それが想定問答になったと思います。一言一句暗記するのは不可能ですし、緊張して頭が真っ白になってしまうかもしれません。しかし、この図式がちゃんとできていれば自分の言葉で伝えることができると思います。また、友人からも指摘をもらいました。自分以外の人から見てもらうと気づかされるのがたくさんあります。訪問期間中は、そのときに聞かれたことなどをメモし、振り返ることもしていました。

志望者へのメッセージ ～相思相愛～

昨年度の内定者の声より～なりたい自分になれる環境を選ぶ～

そのとおりだと思います。就職活動において、自分は選ばれる立場にあると同時に、選ぶ権利も持っています。自分がやりたいことをし、それを求めてくれる、そんな相思相愛な関係が理想です。私の一方的な片思いにならないように頑張りたいと思っています。

私の周りには公務員を受けの人がいませんでした。周囲はとっくに就職先が決まる中、私一人だけ決まっていないという状況は不安も大きかったです。そんなときは説明会に行ったり、OBの方に話を聞いたり、HPをみたりしました。すると自分のなりたい自分のイメージが湧いてきて、やはり環境省へ行きたいという気持ちが強くなります。私は結構単純な人間なので、そうすることでモチベーションが上がりました。

どんな人材が求められるのか。確かにその共通項はあると思います。でも内定者の人たちと話をしていると、多種多様な人たちばかりで、私の知らない世界をいっぱい持ってそうな人たちが大勢います。なので今からとても楽しみです。

基本データ

- (1) 工学系 応用化学 有機太陽電池 修士課程 (修了見込)
- (2) 24 歳 男
- (3) 理工 IV
- (4) 環境省→経産省
- (5) 博士課程進学 (民間は受けず)
- (6) 元気の良さ、人並にコミュニケーションができること

志望動機 ～確実に環境問題に貢献したい～

私は高校の頃から環境問題に興味がありました。いろいろ調べて感じたことは、環境問題に取り組むには幅広い知識が必要だが、それだけだと評論家になり下がってしまう。自分の判断の拠りどころとなる、専門分野 (経済とか化学とか林学とか...) も 1 つくらい必要だろう、ということです。そこで、大学では化学を専攻し、環境・エネルギー問題の解決に向けて太陽電池の研究をすることになりました。科学 (Science) の発展にも貢献でき、環境問題の解決にもつながり、1 石 2 鳥! ということで、研究にのめり込み、そのまま研究の道に進むつもりでした。

しかし、そうしている間にもますます環境問題は深刻化してきました。そこで「今は基礎研究なんてやっている場合ではなく、もっと具体的な環境対策をするべきなのでは？」という疑問が湧き上がりました。それも、大きな視点から、グイッと強力で世の中を動かす必要がある。例えば、CO₂ などの汚染物質を抑制するためには、人々のふだんの生活のあり方を変えるのが有効で、そのための制度を作る、など。そう考えるうちに、だんだん行政官という仕事に魅力を感じるようになってきました。また、行政官は、前述のような「幅広い知識」と「専門分野」も持ち合わせています。

「研究者よりも行政官」とシフトした原因は、他にもあります。例えば、世界全体の産業が日本並みの効率になると、世界の CO₂ 排出量は 1/3 になる。ということは、新しい技術を研究するよりも「今ある技術をいかにうまく使うか」のほうが大事なのではないか、と考えるようになりました。また、日々研究をやっていると、なかなかうまくいかないものです。それでも、おもしろいとは言えますが。研究がうまく行けば、実際に太陽電池として普及して、環境問題の解決に貢献できる。しかし、うまくいかなかった研究は、実際の現場に活かされることはなく、全く環境問題に貢献できずに終わる。自分の研究は 100% うまくいく、とは言えません。つまり、環境問題に貢献できるか分からないのです。それよりも、確実に環境問題に貢献できる仕事をやりたい、と思うようになりました。(要は逃げです。笑)

いろいろな省で環境問題に取り組めます。他とも悩みましたが、最終的には政策ツールの多さよりも省としての理念を重視し、環境省を選びました。

学生時代 ～テニスと家庭教師と研究～

大学 1～3 年は、ひたすらサークルと家庭教師と大会運営をやっていました。サークルでテニスを

やっていて、自分も試合に出ていましたが。それと同時に、学内のテニスサークルを束ねて、大会を運営する組織で役員をやっていました。このときの経験から、制度づくりや行政の仕事もおもしろいものだな、と思うようになっていました。

その後、大学4年～院2年ではひたすら研究室に居ました。研究者を目指していたので、産総研に就職するために国家公務員試験を受けたり、博士課程に進学するためにアメリカ化学会の雑誌に論文を投稿したりしていました。

全体を通して、遊びもバイトも勉強もがんばってきた感じです。「やるべきことが2つ重なったら、両方やればいい」をモットーに、濃度の高い学生生活を送った気がします。ここで遊んでおかないと悔いが残る！ということで、いろいろな遊びにチャレンジし、いろいろやりました。要は、一般的な大学生と同じです。

公務員試験・官庁訪問対策 ～飾らずに素の自分で～

公務員試験対策は、残念ながらあまりやっていません。というのも、当時(大学4年生に上がる時)は行政官になろうなどとは全く考えていなかったからです。もしかしたら修士卒で産総研に就職したくなるかも、、、ということで、その保険のために受験しただけでした。当然、合格者の中の席次はすこぶる悪かったですが、官庁訪問には影響がなかった(?)ようです。勉強で大事だったのは、大学のノートを見返すことと、小論文で書けるネタを探す、ということです。博識な大人(教授とか)とたくさん雑談しておく、その時に聞いた話がまさに小論文で役に立ったりします。

官庁訪問対策は、他の学科の、環境系の講義をやっていた先生(教授)にアポをとって、お話を伺ったり、知り合いの紹介で環境省にOB訪問したりしました。また、自分の興味のある政策(環境税)についての本を読み、理論武装しました。自分の研究内容は必ず聞かれるので、説明しやすいようにA4のレジメを1枚用意しました。

私は環境省に必ずしも入りたいとは思っておらず、もし不適任ということなら、喜んで博士課程に進学するつもりでした。なので面接本番では、相手に迎合することなく、自分の思ったままの意見をぶつけ、自分は環境省に適任なのかどうかを見てもらうことにしました。このような発想だったので、面接でも緊張せず、自然体で振るまえたように思います。

志望者へのメッセージ ～どんな社会を作りたいですか～

就職活動をしていると、興味を惹かれる仕事は山ほどあり、どうしようか迷うことでしょう。理工系の学生は、研究も忙しいとは思いますが。できるだけ時間を作り、興味のある企業(or 省)の説明会やOB訪問に行ってみてください。集めた情報を、ノートなどにまとめ、迷ってる企業ごとに比較したりしてみてください。私も、環境省と他省庁について、自分なりにいろいろ比較して検討しました。それと同時に、月並みですが、自己分析も欠かせません。自分は何のために働くのか、人生の目標は何か...など。

企業を選ぶのは、学生側です。主体的に選びましょう。「自分は、こんなことを成し遂げて、こんな社会を作りあげたい。そのためには、1人で動くよりもここの組織の力を借りるのが一番なので、ここの組織に入ろう。」という感じです。私の場合は、持続可能な社会を作りあげるつもりなので、そのために環境省の力を利用させていただきます。あなたは、どんな社会をつくりあげたいですか？

基本データ

(1) 工学系 電気工学 誘電体材料 修士課程 (修了見込)

(2) 24歳 女

(3) 理工 I

(4) 経産省→環境省

(5) 電力、シンクタンク

(6) 熱意、大学の研究内容

志望動機 ～熱意を言葉に～

私が環境問題に関心を持ち始めたのは小学生の頃です。母の実家がある、山に囲まれ、湧水が常に流れている自然たっぷりの場所によく遊びに行ったことが、環境問題に対する強い危機感を抱くきっかけになっていたのだと思います。また、大学で電気工学を専攻した理由も、環境問題の解決に一步近づくためです。電気は現代の生活に欠かすことのできないインフラであり、発電に伴う二酸化炭素の排出が非常に多いことから、特にクリーンエネルギー技術の開発に興味がありました。

学部1年の時に私はたまたま学内の説明会で国家公務員の仕事を知ったのですが、その説明会で直感的に、これだ！と思いました。法整備や規制や予算などの行政のツールを用いることで、技術開発、技術の普及、環境マネジメント、さらに私達のライフスタイルまで、幅広い分野に関わり環境対策を促進させることができるからです。環境問題の解決に向けてこれだけ多くの人に影響を与えられる仕事は他にないと思いました。

また、昨年メーカーの環境管理部署のインターンシップに参加した時や、エコプロダクツ展を見に行った際に、行政による規制や補助金などのインセンティブがさまざまな業種の企業の環境対策を後押ししていると感じ、国家公務員への志望度が一段と上がりました。

当初志望順位は経産省>環境省でしたが、官庁訪問で環境省の職員の方と話し、省の本質が何なのかを改めて考え、最終的に、環境省の2回目の訪問を終えた時点で環境省が第一志望になりました。

大分感情的な志望動機である気がしますが、面接ではこれまで自分が考えてきたことを素直にぶつけました。

学生時代 ～やっぱり人と人のつながり～

これまでを振り返ってみると、サークル、研究、少々バイト、という程度で、特に自慢できることはありません。けれども、自分の所属するコミュニティの中で良好な人間関係を築けたことが、平凡ではあるけれども楽しい学生生活になったと思います。

私は大学1年から英語サークルに所属しており、引退する3年生までは学業よりもサークルを優先させていました。そうするほど居心地の良い空間で、真面目に英語活動しつつ、飲んで遊んで、時

には人間関係に（英語のスキルも・・・）悩むこともあり、さまざまな思い出に溢れています。一方で、例えばサークルの運営の話し合いでは、これまでの方針を安易に踏襲するのではなく、良いところは残し問題点があれば改善するなど、より良いサークル作りを目指しました。現状に甘んじず、常に改善しようとする姿勢は、公務員として働くようになってからも非常に役に立つと思います。

大学4年になってからは研究室で過ごす日々で、研究は個人作業になりがちですが考察が行き詰ったときは先輩や同期と話し合ったり、頻繁に飲みに行ったりレクを企画したり、非常に仲の良い研究室であると思います。環境省でもこんな付き合いができればいいなと思っています。

公務員試験・官庁訪問対策 ～要点をおさえて効率的に～

・公務員試験

私は修士1年の春に公務員試験を受けましたが、大学4年の時に某予備校に通っていました。予備校のメリットとしては、情報を集める手間が省けることです。特に一般教養は要点をおさえながら広く勉強でき、また専門科目においても出題範囲の的を絞ってくれるので、全範囲を復習するより効率的に得点を稼ぐことができます。

ただ、技術系の場合は、院試の過去問をたくさん解けば専門科目は十分対応できます。（実際、そういう人がほとんどだと思います。）

・官庁訪問

面接形式は各省庁で異なりますが、環境省は1対1で、面接回数が増えるごとに職員の役職も高くなっていきます。聞かれる内容は志望動機、入省後やりたいこと、研究内容、趣味等いたって普通で、素の自分を見られている気がしました。時に職員の方から思いもよらぬ質問をされたり、仕事の経験談を聞けることもあります。面接は、自分の志望動機を再考するきっかけになるので、質問を受けた内容をメモして復習するといいです。そうすることで、自分の軸がより明確になると思います。

志望者へのメッセージ ～いろんな人と話そう～

就職活動において私が学んだ最も大切なことは、いろんな人と話すことです。まず自分の考えや軸を持つことが前提ですが、自分と全く同じ意見を持つ人はいないわけで、自分と異なる考え方を知ることが、自分の視野を広げ、考えを見つめ直し、さらに深く掘り下げるきっかけになります。また、相手が自分よりも多くの知識を持っている人だとわかれば、自分ももっと知識を得ようとするなど、お互いにプラスの影響を受けます。特に社会人の方と話す時、自分の働き方のイメージがしやすいですし、面接練習にもなります。そうやって考え抜いた志望動機は、本番の面接でもブレないです。

私が国家公務員を志望するにあたって自信となったのが、国家公務員に対してあまり良い印象を持っていない、民間企業で働くサークルの先輩と面接練習をしたことです。先輩は、私の本当に環境問題を解決したいと思っているという熱意が伝わってきた、公務員＝安定志向のイメージが変わった、と言ってきて、私は官庁訪問に強気で臨むことができました。

ただ、就職活動は熱意だけで希望の省庁や企業に受け入れてもらえるわけではなく、やはり相手の求める人物像に合わなくてはどうしようもありません。無理に相手の需要に自分を偽るのではなく、素の自分を認めてもらえる相手を見つけるのも、就職活動の難しいところだと思います。頑張ってください！！

基本データ

- 工学系 応用化学 微生物発電 修士課程二年（修了見込）
- 24歳 男
- 理工IV
- 環境省→経済産業省
- 博士課程進学（民間は1社のみ受験）
- （言葉で語ってはいないが）雰囲気や性格

志望動機 ～理屈なき理由～

中学生のときに、坂本竜馬などの歴史上の人物の生き方に憧れ、漠然とですが、そのころから国や世界、人類のために仕事をしたいとは考えていました。より具体的な対象として「環境」「エネルギー」を考えるようになったのは、高校生のころです。「自分が生きている時代で起き得ることのなかで、一番世界平和にとって脅威となることは何だろうか？」と考えたときに、答えとして私が考えたのが、エネルギー・資源の有限性やそれと密接に結び付いた地球温暖化をはじめとする環境問題でした。そう思ったのは、小さい頃、身近に自然があり、そのありがたさを感じながら育ってきた私にとって、自然と人間の共生を考え環境問題に取り組む仕事に就くことは、自分の将来像としてはごく自然なことだと考えていたという理由もあります。

その後、大学では再生可能エネルギーの研究をやってきましたが、今後の長い人生の中心となる仕事を決める上で、研究者の道で環境問題に取り組むという選択肢もかなり真剣に考えました。しかし、自分がどう在りたいかを考えたときに、研究のように個の興味や関心をモチベーションとしてその結果が社会利益につながる在り方よりも、自分は社会の必要性により直接に応える在り方でいたいという気持ちが、心のどこかにずっと残っていました。そんな中、国家公務員という選択肢が目にとまりました。そして何度か環境省を訪れて職員の方の話を聞くうちに、グローバル課題である「環境」に「社会の必要性」というモチベーションから取り組むには、環境省は最高の場所なのではないかと思うようになりました。また実際に官庁訪問をしてより多くの方に会ううちに、比較的小さな役所だからつくれるベンチャー企業のような風通しのよさや、新しいことができそうな雰囲気を感じるようになり、そこにも惹かれました。やはり最後は、自分がその組織で働きたいという理屈では説明できない「強い衝動」がもてるか、それが大切だと私は思います。

学生時代 ～ある意味、研究のみ(?)～

4年生になって研究がメインの生活を送るようになるまでは、部活で囲碁をやっていました。何度か大学の代表として大会に出場する機会がありましたが、特に思い出として残っているのは、中国と韓国に一度ずつ渡り、競技を通じて外国に住む同じ年代の人と交流できたことです。自分の当たり前が相手にとってはそうでない、そんな状況にしばしば出会いながらコミュニケーションする、初めての経験でした。一方で共通の話題や問題意識を共有できれば、意外にすんなり、会話できることも知

りました。こうした経験は、外国人研究者が多い今の研究生活でも役立っていますし、今後の環境省の仕事でも、活かせるのではないかと思います。

囲碁は頭脳労働する競技だけに余計な欲や情念が余計な働きをして負けにつながりやすいので、競技生活を通じては、集中力や冷静さ、知的体力の持久性などは入学したころよりずいぶん向上しました。最近気がつきましたが、囲碁部での日常も、室内の部屋で何人かが「この手はあーだ、こーだ」と議論したり、自分で本を読んで勉強したりする点では、4年生以降の研究と重なっている部分が結構あります。大会は、学会に置き換えられそうですし・・・そういう意味では、大学時代はずっと何かの研究をやっていたと、一言で表すとすれば言えるかもしれません。

公務員試験・官庁訪問対策 ～自分に合った方法が一番です～

受験を決意したのは修士一年の1月下旬でしたが、研究の都合で本格的に準備に入ったのは3月上旬でした。一次の教養試験については市販の過去問の問題集を5年分やり、プラス α で手計算問題の問題集を一冊使いました。一次と二次の専門試験の対策は同時並行で行い、生活リズムとしては試験時間に合わせて3~4時間、過去問をこなしたあと、研究するようにしました。試験直前10日ほどは研究を休みにし、専らすでに解いた専門科目の過去問の復習に当てました。やはり専門科目の比重が大きいので、専門の数科目に浅く広く取り組んでおくことが有効だと思います。

官庁訪問はその場づくりの人間性は通用しない長丁場だと思ったので、官庁訪問だからと、特別なことはしませんでした。志望動機や研究内容など、質問される可能性が高い内容についてはあらかじめ文章の形で整理し、面接のときは明るい表情を保ち、何事にも前向きな答え方をするように注意しましたが、これらはごく一般的な面接対策の域を出ていないと思います。私の個人的な印象では、環境省の面接では、当然、明確な志望理由、論理性、常識なども求められますが、その人の人間性の「面白さ」、つまり他の誰かに言えるかもしれない言葉だけではない、その人の「個」を、重要な要素の一つとしてよく見ている気がしました。試験対策もそうですが、人の方法を単に移植するのではなく、自分に合ったやり方で対策することが一番だと思います。

志望者へのメッセージ ～一期一会、後悔しない選択を～

就職活動では、小さなものから大きなものまで、実に多くの選択をする機会があります。皆さんが国家公務員を志望するという選択を既に下していたとしても、どの省庁を一番に志望するのか、官庁訪問ではどこに力を入れるのか等々、それこそ膨大な数の選択をしなければなりません。それら一つ一つの選択が微妙な相互作用を繰り返し、その結果として将来の形が徐々に決まって来ます。時にはそのつもりはなくても間違った選択をして、痛い目に会うこともあるかもしれません。あるいは、間違ったと思っても、実はそれが結果的によかったということもあるかもしれません。私は幸運にも内定をいただくことができましたが、その知らせを受ける瞬間までは、自分が下してきた選択が、結果として結び付くのか、全くわかりませんでした。ただ私は、その時々で自分が正しいと信じた選択をしてきました。例え結果に結び付かなかったとしても、自分の選択に対して後悔することはなかったと思います。

人生は一期一会です。後悔のないように、その時々を選択を、大切にしてください。